OUKA
Osaka University Knowledge Archive

Title	懐徳堂 News Letter No.6
Author(s)	
Citation	懐徳堂 News Letter. 2017, 6, p. 1-4
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/60679
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

懐徳堂研究センター ニューズレター No. 6

懐徳堂 News Letter

KAITOKUDO

大阪大学文学研究科懐徳堂研究センターが発足して8年となりました。この間、センターでは、懐徳堂関係資料の調査研究、デジタルアーカイブ化の推進、その成果としての「WEB懐徳堂（http://kaitokudo.jp/）」の拡充、学術誌『懐徳堂研究』の刊行などを継続し、国内外から高い評価をいただいて参りました。

大阪大学総合学術博物館（待兼山修学館）

また、平成28年度（2016）は、大正5年（1916）に開学した※重建懐徳堂の100周年に当たることから、大阪大学総合学術博物館（待兼山修学館）において、懐徳堂展が2ヶ月間にわたって開催されました。センターは、その資料展示のための目録・解説キャプションの作成、展示・撤収作業、関連事業における資料解説などを行いました（詳細は、2～3面参照）。

さらに、梅花女子大学との共同研究として、中井終子関係資料のデジタルアーカイブを2年間にわたって進め、その成果を「WEB懐徳堂」で公開しました。これは、懐徳堂の歴代教授を務めた中井家の子孫である終子が、梅花女子大学の前身である梅花女学校で教鞭を執ったことによります。終子の日記・雑記帳・アルバム・ギリシア語単語帳などが梅花女子大学に保管されていることが分かり、その総合調査を進めたものです（詳細は、4～5面参照）。

こうして、学内外で精力的な活動を続ける懐徳堂研究センターについてご理解いただき、今後もご支援賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

懐徳堂研究センター長　湯浅邦弘

※重建懐徳堂……再建された懐徳堂。享保9年（1724）に創設された懐徳堂は、江戸時代の後半約140年にわたり、「大阪学問所」として親しまれましたが、江戸幕府の崩壊とともに、明治2年（1869）に閉校となりました。しかし、明治時代後半の復興運動を経て、大正5年（1916）に再建されました。学舎は、昭和20年（1945）の空襲により焼失しましたが、鉄筋コンクリート造りの書庫棟に収められていた貴重資料約3万6千点は、戦後、一括して大阪大学に寄贈され、現在に至っています。

懐徳堂300年の歴史、そして重建懐徳堂　開学100年にあたって　―懐徳堂展の開催―

重建懐徳堂の開学100周年を記念する懐徳堂展が開催されました（主催：大阪大学総合学術博物館、共催：大阪大学大学院文学研究科・一般財団法人懐徳堂記念会）。

名　　称……大阪の誇り―懐徳堂の美と学問―
会　　期……平成28年（2016）10月22日～12月22日
会　　場……大阪大学総合学術博物館（待兼山修学館）
展示資料……懐徳堂文庫（現在約5万点）の中から厳選した最重要資料35点

関連事業

(1) 一般財団法人懐徳堂記念会主催「懐徳堂秋季講座」

平成28年（2016）10月29日、大阪大学豊中キャンパス共通教育棟A102で、「よりよく生きるために」を総合テーマとして講演・シンポジウムを開催し、その後、懐徳堂展参観を実施しました。参加者106名。

(2) ミュージアムレクチャー

懐徳堂展期間中の11月5日、11月26日、12月17日、大阪大学の若手研究者によるミュージアムレクチャーを実施しました。そのレポートを3面に掲載しました。

懐徳堂展を彩った展示資料

◀中井竹山肖像画

中井竹山（懐徳堂第四代学主）の講義姿を描いた肖像画。寛政10年（1798）正月に懐徳堂内で書画の競作が催された際、中井藍江が描いたもの。竹山69歳の晩年の姿である。賛は竹山の自筆。謙虚な中にも懐徳堂学主としての自負をうかがわせる。

懐徳堂幅▶

懐徳堂初代学主三宅石庵による「懐徳堂」書幅。「懐徳」とは、徳を懐うという意味で、『論語』の「君子懐徳」がその出典ではないかとされる一方、創設時の関係者の書き残したものがないため、その由来については諸説がある。いずれにしても、この書幅には、懐徳堂の基本的精神を道徳の重視に求めた石庵の願いが込められている。

◀鶉 図

鶉二羽の絵の上部に中井履軒が漢文で題詩を記し、絵の左側に上田秋成が和歌を添えたもの。その画題は、鶉のように、居所が一定しないことを表し、懐徳堂の外に身を置いて転居を繰り返した履軒と、鶉翁（じゅんおう）、鶉居（うずらい）を号とした秋成との交友を示している。

ミュージアムレクチャーレポート

中村翼
（大阪大学大学院助教）

なぜ、いま懐徳堂なのか？ ―18世紀と現在―

大阪大学が待兼祭で賑わうなか、「懐徳堂の歩みとそれを支えた人々」と題するレクチャーを担当いたしました。これ以前に湯浅邦弘編著『増補改訂版 懐徳堂事典』（大阪大学出版会、2016年）の刊行に関わる幸運に恵まれ、ここでさらにその折に集めた資料を活用する機会を得ることができました。この場を借りて、参加者をはじめ関係者各位に感謝を申し上げます。

さて、懐徳堂が創建された18世紀は、徳川社会が成熟と繁栄を謳歌する一方、17世紀に急激に進展した人口増加や開発が頭打ちになった停滞の時代でもありました。そうした時代ゆえ、18世紀には「治」のあり方、そして学問の社会的責任が厳しく問われたわけですが、こう言うと現在の日本社会を想起する方もいるかもしれません。18世紀の幕開けを告げたのが房総沖を震源とするいわゆる元禄地震（M8.2）だったことも示唆的です。ともあれ私は、懐徳堂の活動をいま振り返る意義を、このあたりから考えています。

佐藤由隆
（大阪大学大学院博士後期課程）

学びて時に之を習う、亦た説ばしからずや

私は中村翼先生に引き続き、第二回目を「懐徳堂の儒学」という題目にて、懐徳堂の学者達の学問的な特色についての講義を担当させて頂きました。

中村先生のご講義が盛況であったことを伺いまして、まだまだ半人前の身分であり題目も非常に堅い自分の講義に、果たしてどれほどの方々が興味を示してくださるのだろうか、と戦々兢々としておりましたが、当日たくさんの方々にお越しくださり、大変嬉しく感ずるとともに、いっそう身が引き締まる思いでした。

このような場にて講義を担当させて頂くのは初めての経験であり、反省する点は尽きませんが、「学問は、その成果を実際の社会や生活の中で行っていかなければ意味がない」という懐徳堂の理念を我が身で実践することで、自分もようやくその精神を受け継ぐことができた、と感慨に浸っております。今後はこの経験を糧に、懐徳堂の学問所としての特色とその面白さを、より広く発信していけるよう、精進を積んで参る所存です。

河野光将
（大阪大学大学院博士後期課程）

「フィロソフィア」～知を愛する精神～

重建懐徳堂百周年記念行事の一環として、「懐徳堂の和学」という題目でレクチャーお話しをさせて頂く機会を与えられました。

年の瀬が迫るずいぶん寒い時期であったにも関わらずお集まり頂いたわけですが、その会場は研究会や学会などのピリピリとしたムードとは違って、どこか和やかで暖かい雰囲気に満ちており、その点でまず新鮮な印象を受けました。しかし、レクチャーが終わって質問の時間に移ると、こちらがハッとするような本質的な質問も飛び出し、和やかなムードから一転、これは学会だったかなと錯覚するような緊張感を覚えることとなり、私自身にとっても、とても良い刺激となりました。

その時の質問に対して、十分に答えることができたかは甚だ心許ないですが、今後研究を続ける中で様々なことを明らかにし、再びその成果を一般の方にも還元することができればと思います。市民の手になる学問所であった懐徳堂の精神を考える時、今回の経験は学問の成果を広く社会に還元していくことの重要性を改めて思う契機となり、そのような機会を与えて頂いたことに深く感謝しております。

関係資料

2016年10月、懐徳堂展の開催にあわせて以下の関係書が大阪大学出版会から刊行されました。

『増補改訂版 懐徳堂事典』（湯浅邦弘編著）
2001年に刊行された『懐徳堂事典』を、その後の研究成果も盛り込んで大幅に増補改訂したもの。

『懐徳堂の至宝―大阪の「美」と「学問」をたどる―』（湯浅邦弘著）
懐徳堂展の図録の役割を担い、大阪大学総合学術博物館叢書13として刊行されたもの。

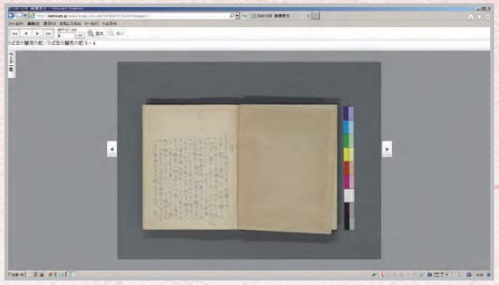
DIGITAL CONTENTS

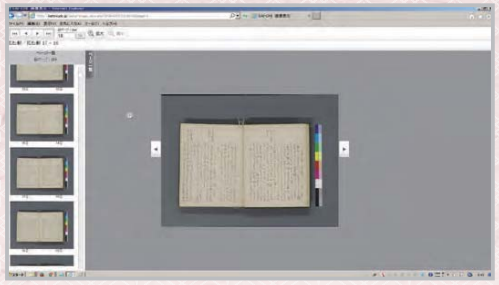
デジタルコンテンツ紹介 WEB懐徳堂 http://kaitokudo.jp/

デジタルコンテンツの新展開 平成27年度（2015）～28年度にわたり、新たなデジタルコンテンツを制作し、「WEB懐徳堂（http://kaitokudo.jp/）」にアップロードしました。

中井竹山・履軒関係資料

梅花女子大学所蔵中井竹山・履軒関係資料の内、『楓幛日記』『うば玉の闇夜の記』『孤松軒』「ギリシャ語単語帳」、およびアルバムをデジタルコンテンツとして公開しました。
インターネット上で、実際にページをめくるようにして全体を閲覧できます。デジタルコンテンツの特性を活かし、目次から該当章へジャンプすることもできます。


うば玉の闇夜の記

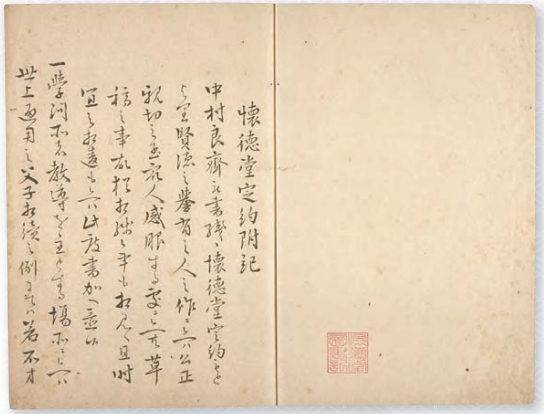

孤松軒

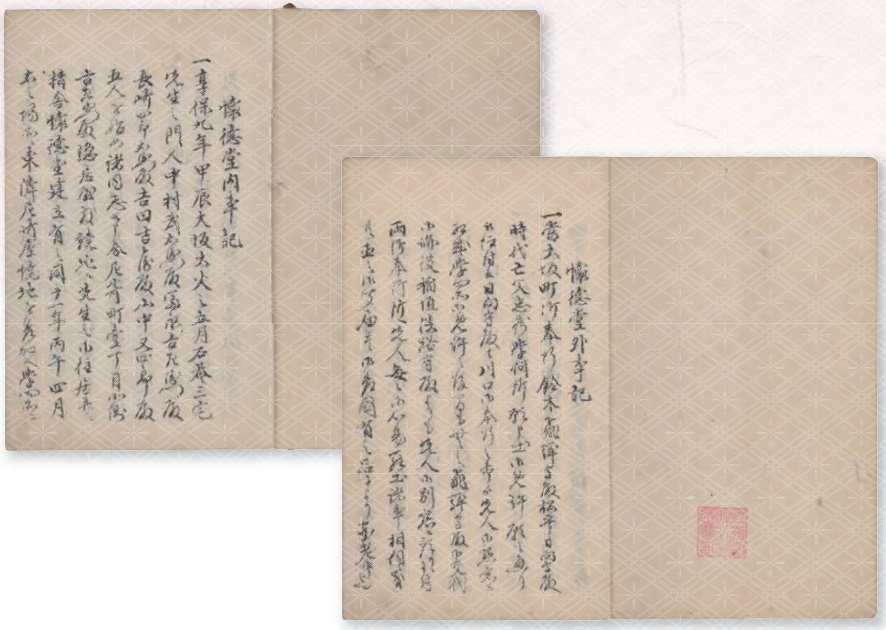
ギリシャ語単語帳

アルバム

学校記録類―運営関係文書―

平成27年度の日本学術振興会科研共同研究「懐徳堂の総合的研究」（代表者:島根大学竹田健二教授、分担者:湯浅センター長ほか）として、懐徳堂文庫資料の内、特に江戸時代の学校運営に関わる資料「学問所建立記録」「定約附記」「懐徳堂内事記」「懐徳堂外事記」をデジタルアーカイブ化し、公開しました。





懐徳堂研究センターの業務

(1) 懐徳堂に関わる調査・研究、資料の収集・作成（デジタルコンテンツを含む）

(2) 『懐徳堂研究』（年1回定期）、パンフレット、ニューズレター（不定期）等の広報媒体の編集・刊行

(3) 懐徳堂研究の総合サイト「WEB懐徳堂（http://kaitokudo.jp/）」の管理運営

(4) 学内外における懐徳堂資料の展示、講演会などの開催

(5) 懐徳堂記念会の事業に関わる資料調査等の協力

(6) 本学附属図書館および総合学術博物館の業務に関わる懐徳堂関係資料の調査等の協力

懐徳堂研究センター Q&A

Q 「懐徳堂文庫」所蔵の貴重資料を閲覧するにはどうしたらよいですか?

A 懐徳堂に関する貴重資料は、一部を除き、大阪大学附属図書館に配置・集中管理されています。閲覧等の手続きについては、附属図書館利用支援課（〒560−0043大阪府豊中市待兼山町1番4号、06-6850-5069（FAX））へお問い合わせ下さい。

Q 懐徳堂に関する画像を借用したり、図書に掲載するにはどうしたらよいですか?

A 所蔵元によって申請方法が異なります。詳しくは、懐徳堂研究センターHPをご覧下さい。

Q 旧懐徳堂センターの『懐徳堂センター報』や懐徳堂研究センターの『懐徳堂研究』のバックナンバーを見るにはどうしたらよいですか?

A 平成23年度より、順次バックナンバーを懐徳堂研究センターHPで掲載し、ダウンロードできるようになっています。

（その他、詳細は懐徳堂研究センターHPをご覧下さい。）

OSAKA UNIVERSITY 大阪大学

懐徳堂研究センター
http://www.let.osaka-u.ac.jp/kaitoku-c/
〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5 大阪大学大学院文学研究科内
06-6850-5088（直通）

2017.2